



八



上

85  
6673  
2

采也

花の香と鏡またるふ

所へも立ちゆくは

まの初風

年々  
昔々  
今々  
あはれ  
なれ

山にわれとて思ふ日此

をうねるゆゑに

春の初風

かたじけなく

法人乃昔はあれは

あけくし相まのらえの

香舟白らん

香舟



光の如く  
光の如く  
光の如く  
光の如く

光の如く  
光の如く  
光の如く  
光の如く

光の如く

光の如く  
光の如く  
光の如く  
光の如く

光の如く

光の如く  
光の如く  
光の如く  
光の如く

光の如く  
光の如く  
光の如く  
光の如く

光の如く  
光の如く  
光の如く  
光の如く

光の如く

光の如く



一  
此物と相成るべき子に  
言ふこととてよき事乃  
其を長宗より

甘藷

一  
此物と相成るべき子に  
言ふこととてよき事乃  
其を長宗より

若れ若れ

甘藷

年月を以て

一  
園の産れたるもの

二  
日新の産れたるもの

三  
其の細く

東に

一  
此物と相成るべき子に

まの紙

と書

しらと社  
うらと社  
東に六社

浮雲のちりけり

あつらひたれり

まの紙

と書

まの紙

あつらひたれり

まの紙

と書

まの紙

あつらひたれり

まの紙

上下の分

まの紙

（礼）

とすいすい

身は換るまはれしを

けしきも事あるは

つやえん

松重

言のあはれし

まじりしを

年のうら

とすい

惜とらあはれし

をの事あるは

らむあはれ

今すい

定

